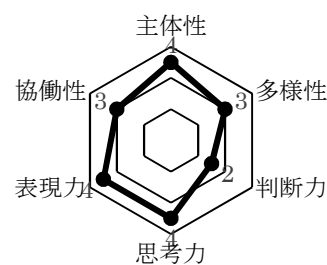


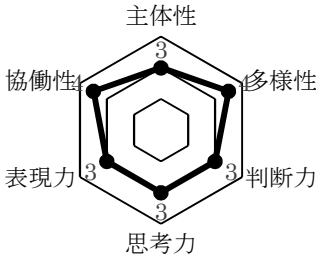
## 2025年度「プロジェクト研究4」シラバス

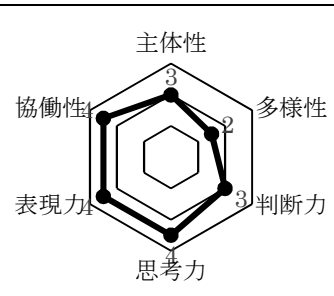
テーマ カテゴリ	プロジェクト No.	プロジェクト名	氏 名	ページ
麒麟	1	鳥取の街なかを調査し、映像にする	倉持 裕彌	1
	2	鳥取を元気にするイベントをプロデュースする	齊藤 哲	2
	3	民俗学的観点から考える麒麟地域	下境 芳典	3
	4	プロモーションビデオをつくる	千代西尾 祐司	4
	5	まちの「居場所」を探る	張 漢賢	5
	6	教材用ノートPCの活用 ～使ったことのない機能の発見～	中治 弘行	6
	7	考現学～観察を通して社会を読み解く～	山口 創	7
	8	「〇〇王国、鳥取」を構想する	吉永 郁生	8
	9	まちなかの国際化を調べよう	連 宜萍	9
SDGs	10	サステナブル・モビリティについて深く調べよう	岩田 健吾	10
	11	私たちのくらしとごみ	金 相烈	11
	12	エネルギー自立と持続可能な社会	甲田 紫乃	12
	13	大学生の自由研究	高井 亨	13
	14	公立鳥取環境大学のヤギをテーマに人と動物の共生のかたちを考えよう	谷口 晴香	14
	15	鳥取からおにぎり世界に発信しよう！	藤木 善夫	15
	16	学内の社会的資源を訪問し、学生生活のQOLを高めるⅡ	藤田 恵津子	16
	17	未来社会をデザインする	堀 磨伊也	17
	18	コンポスト化による生ごみのリサイクル	門木 秀幸	18
グローバル	19	2025年の国際情勢の歴史的意味を考えよう	相川 泰	19
	20	Think Globally, Act Tottori	加藤 禎久	20
	21	日本と世界	門田 慎也	21
	22	What kind of materials are best to teach and learn English?	ジョーン パンヴィル	22
	23	いろいろな「モノ」や「コト」の歴史について調べよう。	谷口 謙次	23
	24	英語を使って楽しもう	徳山 瑞文	24
	25	「グローバル社会とその多様性を理解する」	中村 弘子	25
	26	再生可能エネルギーの活用を考えてみよう	松井 徹	26
	27	鳥取でグローバル社会を考える	柚洞 一央	27
一般	28	鳥取のイラストギフトステッカー開発	磯野 誠	28
	29	三朝温泉「シン・湯治場」計画	老田 智美	29
	30	歴史上の出来事や伝承・伝説・行事の「意味」を解釈する。	川崎 紘宗	30
	31	ちゃんと調べてみる	久保 奨	31
	32	これ本当に流行ったの？「流行」を体験してみよう。	竹内 由佳	32
	33	テニスの科学	戸蒔 丈仁	33
	34	鳥取の移住者を増やそう！	中島 智子	34
	35	鳥取県で生産されている農産物を探る	山口 和宏	35

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	倉持裕彌																							
授業の概要	<p>キーワード： 中心市街地，商店街，映像制作</p> <p>&lt;テーマ&gt; 鳥取の街なかを調査し，映像にする</p> <p>&lt;概要&gt; 鳥取市の中心市街地について，歴史や実態を調査し，それらの結果を画像や映像を用いたショートムービーにまとめます。グループごとにテーマ設定・ストーリーの構成・素材の撮影・編集作業等を行います。</p> <p>単に映像作品を作るのではなく，文献調査や現地調査によって，中心市街地の成り立ちや特徴，構造について学習しながら，作品づくりを進めていきます。なお，通行人や店主に対するインタビュー，飲食店の体験レポートは原則禁止します。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、フィールドにおける自主的なグループ活動が必要です。これまでのプロジェクト研究の経験を十分に活かし、協働性を持ちつつ主体的に行動する模範となることを目指します。また映像の企画制作を通して表現力も高めていきます。</p>																							
授 業 計 画	<div><div><div>1. オリエンテーション（自己紹介含む）</div><div>2. グループ分け，仮動画作成</div><div>3. 街歩き・調査テーマ</div><div>4. 絵コンテ作成・動画撮影演習・ショート動画上映</div><div>5. 調査設計・工程表作成・報告</div><div>6. 調査（文献調査）</div><div>7. 調査（フィールドワーク）</div><div>8. 絵コンテ作成・報告</div><div>9. 調査（映像作成開始）</div><div>10. 作品の編集作業</div><div>11. 作品の編集作業</div><div>12. プレゼンテーション1回目</div><div>13. 作品の編集作業</div><div>14. プレゼンテーション2回目</div><div>15. 発表会</div></div><div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div></div>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評 価 方 法	<div><div>グループ活動への参加状況，調査および映像作成への協力・貢献等を総合的に評価します。それぞれ目安は50%とするが，メンバー構成などに応じて柔軟に設定します。</div><div><table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>各回，または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table></div></div>									最終成果物の完成を重視			●	各回，または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視			●	各回，または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	グループによっては講義外の時間に街歩き等の活動をすることもあります（グループ内の話し合いで決定する。）																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<div><div>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</div><div><table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td>●</td><td></td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table></div></div>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る	●			学内で活動	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る	●			学内で活動																				
時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり																				
教 材	<div><div>◆教科書： 不要</div><div>◆参考書： 適宜紹介します</div></div>																							

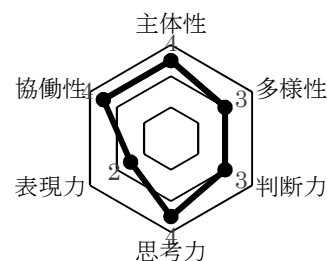


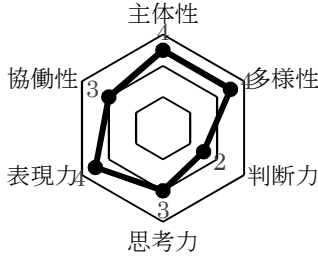
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	齊藤哲								
授業の概要	<p>キーワード： プロジェクトマネジメント、プロセスの見える化、PDCA サイクル</p> <p>＜テーマ＞ 鳥取を元気にするイベントをプロデュースする</p> <p>＜概要＞ 学生自ら「鳥取を元気にするために開催したいと考えるイベント」を設定し、そのイベントをプロデュースするためにやるべきことを考えます。通常、イベント実施までのプロセスはチームで行うため、見える化が重要です。また、見える化したプロセスは、PDCA(Plan:計画, Do:実行, Check:評価, Action:対策・改善) サイクルを回しながら、成功に近づけていきます。本プロジェクト研究では、このイベントを成功に導くプロジェクトマネジメントの手順を体感します。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、次の3つの能力を特に重要視します。</p> <p>(1)多様性…問題を多面的にとらえる能力</p> <p>(2)思考力…問題の解決策を考える能力</p> <p>(3)判断力…問題を解決に導く能力</p>								
授業計画	<p>1. イントロダクション（自己紹介、研究の概要など）</p> <p>2. 研究テーマ(イベント)の立案</p> <p>3. 研究テーマ(イベント)の計画</p> <p>4. プロジェクトマネジメントの調査・分析(1)-作業の細分化-</p> <p>5. プロジェクトマネジメントの調査・分析(2)-作業の細分化-</p> <p>6. プロジェクトマネジメントの調査・分析(3)-スケジュールの作成-</p> <p>7. プロジェクトマネジメントの調査・分析(4)-スケジュールの作成-</p> <p>8. 中間レビュー</p> <p>9. 研究テーマ(イベント)の詳細化(1) -リスクへの対応-</p> <p>10. 研究テーマ(イベント)の詳細化(2)-リスクへの対応-</p> <p>11. 研究テーマ(イベント)の詳細化(3)-収支計画、パンフレット作成-</p> <p>12. 研究テーマ(イベント)の詳細化(4)-収支計画、パンフレット作成-</p> <p>13. 発表準備(1)</p> <p>14. 発表準備(2)</p> <p>15. 発表会</p>								
評価方法	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●		学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容			●		2人以上のグループ活動が必須			
講義外での学習	講義中に学習のヒントとなる課題を出すので、提出すること。								
履修上の注意事項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p>								
教材	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●			他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施		●			他の曜日の集合あり			

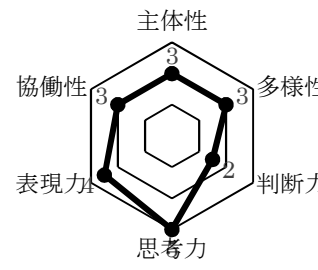
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	下境芳典								
授業の概要	キーワード： 生活文化、風習、伝承								
	<b>&lt;テーマ&gt; 民俗学的観点から考える麒麟地域</b> <b>&lt;概要&gt;</b> 歴史の教科書は権力者の移り変わりを中心に記述されていて、その時代に普通に生活していた人々のことはあまり書かれていません。このような庶民の歴史を研究する「民俗学」という学問があります。大学周辺地域の民俗に注目して、教科書には書かれていない歴史をみんなで調査しましょう。								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、グループごとに麒麟地域の民俗学的な研究テーマを設定し、現地調査を行い、その結果を発表することで、右記の到達目標の達成を目指します。特に大学生として必要な協働性、多様性の向上を狙いとします。</p>								
授 業 計 画	1. 履修確認・初回ガイダンス 2. 受講生の自己紹介 3. 民俗学について大学図書館で調査 4. 個人研究 5. 個人研究の発表 6. グループ分け、グループ研究の準備 7. グループ研究① 8. グループ研究② 9. グループ研究③ 10. グループ研究④ 11. グループ研究⑤ 12. グループ研究⑥ 13. 発表準備① 14. 発表準備② 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評 価 方 法	グループ研究の貢献度等を、学生同士の相互評価も含めて総合的に評価します。								
	最終成果物の完成を重視					●	各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	学外での情報収集や講義時間外の活動が必要となり得ます。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る				●		学内で活動		
	時間割通りの実施				●		他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： 使用しません。 ◆参考書： 適宜紹介します。								

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	千代西尾 祐司																							
授業の概要	<p>キーワード： PBL，探求，プロモーション，映像・音声編集，マネジメント</p> <p>＜テーマ＞ プロモーションビデオをつくる</p> <p>＜概要＞ 定められたテーマに沿ったプロモーションビデオをグループでつくりま す．テーマ設定から情報収集，整理・分析，課題設定，アイデア創出，表現など，課題 達成までには多くの道のりが有り，それらをグループで解決しながら最終的な作品へ と仕上げます．また，グループのマネジメントは上級生が行います．</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表 現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身に つけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、PBL（Project Based Learning）を遂行することを通して，課題を解決 するための道筋とグループ運営のマネジメントを経 験の中で学ぶことを重視します．映像編集スキル等 を高めるための，自主演習の部分も多くなります．</p>																							
授業計画	<div><div><div>1. オリエンテーション，PBL の概要と進め方，グループ分け</div><div>2. 対象選択とプロモーションの方向検討，仮説設定</div><div>3. 情報収集①</div><div>4. 情報収集②</div><div>5. 整理分析・課題設定・方向性のアイデア出し</div><div>6. 画像編集の基礎</div><div>7. 音声編集の基礎</div><div>8. 絵コンテ作成</div><div>9. プロモーションビデオ作成①</div><div>10. プロモーションビデオ作成②</div><div>11. プロモーションビデオ作成③</div><div>12. プロジェクト研究内での発表，相互評価</div><div>13. 相互評価を受けての修正案作成</div><div>14. プロモーションビデオ修正（最終版完成）</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>グループ活動への貢献度，参加状況，成果物等を総合的に評価します．また，グループの マネジメントも評価対象になります．</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回，または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回，または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回，または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での 学 習	PC で映像編集等を行うため，スキルを身につけるための自主演習の時間が多くなるはず です．また，グループ内での自主活動が行われることもあります．																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： ◆参考書：																							

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	張漢賢（専任）								
授業の概要	キーワード： サード・プレイス、居場所、生活環境								
	<b>&lt;テーマ&gt; まちの「居場所」を探る</b>  <概要> 「サード・プレイス（third place）」という概念があります。それは、日常生活に最も長く居る「自宅」（1st place）、「職場」（2nd place）以外の「第三の場所」を指します（磯村 1975、Oldenburg 1989）。このような「居場所」は様々な人やニーズに対応し、色々な形で存在しています。本研究では、まずこの「居場所」の多様なあり方を文献で概観します。まちなかやまわりの生活環境にある様々な「居場所」を探り、ハード（空間）・ソフト（利用実態・運営など）に拘らず、その本質を多角的に考察します。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、入門段階から応用段階への移行期間として、課題に合わせた専門的なアプローチも取り入れるなどして、自分に取り組んでいる問題を他人はどのように取り組んだのかを調査する能力、自分がどのような問題を解決すべきかを見定める能力を身につけます。								
授 業 計 画	1 回目 インTRODクシヨン 2 回目 文献学習 3 回目 文献学習 4 回目 研究テーマを考える 5 回目 研究テーマを考える 6 回目 研究計画を立て、調査を準備する 7 回目 フィールド調査と報告 8 回目 同上 9 回目 同上 10 回目 同上 11 回目 同上 12 回目 同上 13 回目 研究成果まとめ 14 回目 発表リハーサル 15 回目 成果発表								
	教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
	評価方法								
学習の態度、グループに対する貢献、各段階の達成度、研究成果で評価します。									
最終成果物の完成を重視					●	各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	まちの「居場所」は色々なかたちで存在している。同じ場所であっても人によって求め方が異なり、存在意義が異なる。何故それが「居場所」・「サード・プレイス」になり得るかを考えてみましょう。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●		他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 日本建築学会編、「まちの居場所—まちの居場所をみつける／つくる」、東洋書店、2010。他								

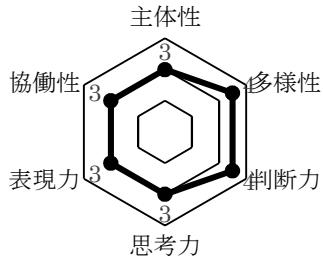


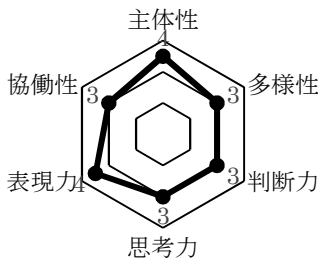
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	中治弘行																							
授業の概要	<p>キーワード : PC、ICT</p> <p>&lt;テーマ&gt; 教材用ノート PC の活用 ～使ったことのない機能の発見～</p> <p>&lt;概要&gt; コンピューターでできることはコンピューターにやらせることができるようになります。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、多様性、表現力、主体性を特に重視します。</p> <div></div>																							
授業計画	<div><div><div>1. ガイダンスなど</div><div>2. 情報リテラシで学習した利用方法の復習 (1)</div><div>3. 情報リテラシで学習した利用方法の復習 (2)</div><div>4. 情報リテラシでの課題に再挑戦 (1)</div><div>5. 情報リテラシでの課題に再挑戦 (2)</div><div>6. 情報リテラシでの課題に再挑戦 (3)</div><div>7. インストールされているソフトウェアを知る</div><div>8. 未知のソフトウェアの使い方を学ぶ (1)</div><div>9. 未知のソフトウェアの使い方を学ぶ (2)</div><div>10. 未知のソフトウェアの使い方を学ぶ (3)</div><div>11. 複数の方法で課題を実現する (1)</div><div>12. 複数の方法で課題を実現する (2)</div><div>13. 発表資料を PowerPoint で作成する</div><div>14. 発表資料を PowerPoint 以外の何かで作成する</div><div>15. 14 回目に作成した資料で発表する</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2 人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2 人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2 人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>取り組み状況と成果物を総合的に評価します。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	自学自習が重要ですが、困りごとはひとりで抱え込まないようにしましょう。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書： 特に指定しない。</p> <p>◆参考書： 特に指定しない。必要なものを見つけてください。</p>																							

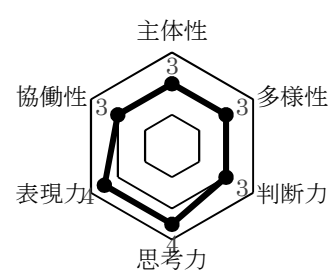
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	山口 創								
授業の概要	キーワード： 考現学、フィールド調査（観察）								
	<p>＜テーマ＞ 考現学～観察を通して社会を読み解く～</p> <p>＜概要＞ 考現学とは、昭和初期に今和次郎らが提唱した学問で、一見すると取るに足らないような人々の行動、物事などの観察、データ収集を通して世俗、風俗の考察を試みるものです。今らは、街ゆく人々の服装、女性の髪型、露天商の人寄せ方法などの調査から、昭和初期の東京の生活や風俗を描き出しました。本プロジェクト研究では、実際に人々や物事の観察、データ収集に取り組み、人々の暮らしや鳥取という土地について考えてみたいと思います。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。 プロジェクト研究4では、テーマ設定、調査方法の決定、フィールド調査、結果のとりまとめ、考察という社会調査の基礎的なプロセスを経験することにより、特に思考力や表現力を養うことを目的とします。</p>								
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. 予備調査、グループ分け 3. テーマ設定 4. テーマ設定 5. 調査方法の検討 6. 調査方法の検討 7. フィールド調査 8. フィールド調査 9. フィールド調査 10. 結果のとりまとめ、考察 11. 結果のとりまとめ、考察 12. 結果のとりまとめ、考察 13. 発表準備 14. 発表準備 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評 価 方 法	最終成果物 50%、授業の取組状況 50%で評価します。								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習									
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る				●		学内で活動		
	時間割通りの実施				●		他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： ◆参考書： 考現学入門（ちくま書房）、路上観察学入門（ちくま書房）								

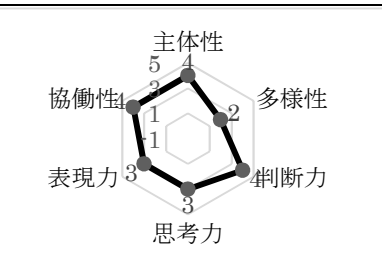


科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	吉永郁生																							
授業の概要	<p>キーワード： 地方創生、生活空間、価値観</p> <p>&lt;テーマ&gt; 「〇〇王国、鳥取」を構想する</p> <p>&lt;概要&gt; 鳥取市を含む麒麟地域では、人口減少による地域社会の崩壊が危惧されています。一方で、人々の価値観も多様化し、この地方での生活を望む人々も一定数存在しているように思われます。麒麟地域を定住空間とするうえで、どのような価値を優先するかを考え、その価値を「〇〇王国」というスローガンに落とし込み、提唱します。そのために、この地域の独自性、他地域との比較優位・劣位を探るところから始めます。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、個人活動とグループ活動の両方があります。構想した鳥取の将来構想を具現化するために、他者を納得させ、支持してもらわなければなりません。そのために、ディスカッションを通じて、多様性を認め合い、協働的に作業できる力が必要です。</p> <div></div>																							
授業計画	<div><div><div>1. 1. ガイダンスと背景の説明</div><div>2. 個人研究計画 1_研究計画発表</div><div>3. 個人発表</div><div>4. 個人発表</div><div>5. 個人発表</div><div>6. 個人発表</div><div>7. グループ研究計画 1</div><div>8. グループ研究計画 2_研究計画発表</div><div>9. 研究実施</div><div>10. 研究実施</div><div>11. 研究実施_中間発表</div><div>12. 研究実施</div><div>13. 研究実施</div><div>14. 発表準備</div><div>15. 予備日</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>個人の発表内容とグループ研究の発表内容、およびそれに関連した討論で評価します。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	場合によっては、講義外、学外での活動があります。また、同一日に4限・5限を通して実施することもあります。事前に皆さんと相談します。																							
履修上の注意事項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： ◆参考書：																							

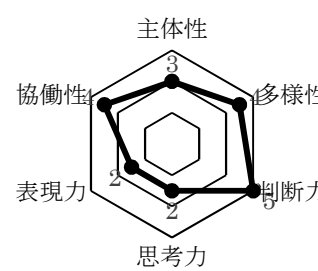
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	連 宜萍（専任）								
授業の概要	<p>キーワード： 国際化、異文化、国際交流</p> <p>&lt;テーマ&gt; まちなかの国際化を調べよう</p> <p>&lt;概 要&gt; 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）は国境を越えて移動しています。我々は海外に行かなくても、常に外国の商品を買って使って、外国の情報を得て、外国語の案内表示を見て、外国人と触れ合うチャンスがあります。本プロジェクトでは、まず町中や周りの国際化の現状を見て調べます。今後ますます国際化が進むなかで、日本はどう変わるか、どう対応すべきかなどを調査し明らかにします。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトではまちなかの国際化についての現状を考察したうえで、ブレインストーミングとKJ法を用いて自ら研究課題を設定します。まちなかの国際化の問題はどうやって解決するかを提案するために、グループメンバーと議論することを通じて情報収集、調査計画、実施方法等を学習します。</p>								
授 業 計 画	<div>1. イン트로ダクション</div> <div>2. ブレインストーミング、研究テーマを決め、チームを分けます</div> <div>3. 国際化の現状を把握します</div> <div>4. 調査の質問票を作成し、調査計画を立てます</div> <div>5. フィールド調査の準備・計画について報告します</div> <div>6. 調査の実施</div> <div>7. 調査結果の報告、ディスカッション</div> <div>8. 調査の実施</div> <div>9. 調査結果の報告、ディスカッション</div> <div>10. 調査の実施</div> <div>11. 調査結果の報告、ディスカッション</div> <div>12. 研究成果まとめ</div> <div>13. 研究成果まとめ</div> <div>14. 成果物のアップロード、発表リハーサル</div> <div>15. 公開発表会</div>								
	教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視				●		学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容				●		2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	グループディスカッションへの参加、プロジェクトへの貢献（とりわけ他のグループへの貢献的なコメント）、成果物等を総合的に評価します。								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	講義時間は主に発表や検討に使うため、グループ議論やフィールド調査、パワーポイントの作成は講義時間外で行うこと。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成				●		他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る				●		学内で活動		
	時間割通りの実施				●		他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： ◆参考書： 授業中に必要に応じて指定します。								

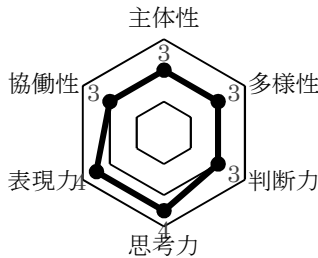
科目名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs															
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	岩田 健吾																							
授業の概要	<p>キーワード： 都市政策、EV、MaaS、シェアリングサービス</p> <p>＜テーマ＞ サステナブル・モビリティについて深く調べよう</p> <p>＜概要＞ 「サステナブル・モビリティ」は、SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」および目標 13「気候変動に具体的な対策を」に直結する重要なテーマである。本プロジェクト研究では、サステナブル・モビリティの可能性と課題について多角的に調査する中で、学生が主体的に思考し、視野を広げることを目的とする。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本プロジェクトでは、学生自らが主体的に考えることを重視し、特に表現力を養うことを目的とする。</p> <div></div>																							
授業計画	<div><div><div>1. ガイダンス（自己紹介など）</div><div>2. グループにおける研究テーマの選定</div><div>3. グループにおける研究計画の策定</div><div>4. グループでの研究活動①</div><div>5. グループでの研究活動②</div><div>6. グループでの研究活動③</div><div>7. グループでの研究活動④</div><div>8. 研究結果の中間発表</div><div>9. グループでの研究活動⑤</div><div>10. グループでの研究活動⑥</div><div>11. グループでの研究活動⑦</div><div>12. グループでの研究活動⑧</div><div>13. 発表会に向けた資料作成</div><div>14. 発表会に向けた練習</div><div>15. 発表会</div></div><div>※上記の計画で進めていく予定であるが、必要に応じて柔軟に変更する可能性がある。</div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>ディスカッションやグループ活動への参加意欲（30％）、中間発表（20％）、発表会での最終成果（50％）で評価。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	研究の進捗状況によって、グループの講義外での打ち合わせが必要となる場合がある。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 必要に応じて適宜示す。</p>																							

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	金 相烈								
授業の概要	キーワード： ゴミ調査、一人暮らし、排出抑制								
	<p>&lt;テーマ&gt; 私たちの暮らしとごみ</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>本プロジェクト研究では、私たちの暮らしとごみがいかに密接に関連しているかを理解するために、わたしたちの毎日の暮らしから、どのようなごみが、どれくらい出ているか、また一人暮らしのごみの特徴を調べ、さらにごみ減量のための改善策を工夫し、検証する。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、自分の考えているところを相手に的確に伝える力、他の人の意見を引き出し、全体を取りまとめる力、そして、筋道を立てて体系的に考える力を重視します。</p>								
授業計画	<p>1. ガイダンス・自己紹介</p> <p>2. 各地元におけるごみ処理について調査し、発表する。</p> <p>3. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 1</p> <p>4. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 2</p> <p>5. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 3</p> <p>6. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 4</p> <p>7. 1 か月間の結果をまとめ、発表する 1（中間発表）</p> <p>8. 1 か月間の結果をまとめ、発表する 2（中間発表、班分け）</p> <p>9. 班ごとに調査および報告 1</p> <p>10. 班ごとに調査および報告 2</p> <p>11. 班ごとに調査および報告 3</p> <p>12. 班ごとに調査および報告 4</p> <p>13. これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備 1（発表練習）</p> <p>14. これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備 2（発表練習）</p> <p>15. 発表会</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視			●			学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視				●		学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容			●			2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	チーム力（2割）、コミュニケーション（2割）、プレゼン力（2割）、寄与度（1割）、発表成果物（3割）								
	最終成果物の完成を重視					●	各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	廃棄物の発生量等の統計調査と、自分の地元の（市町村等）のごみ処理管理・政策の実態を事前に調査すること。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施			●			他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： ◆参考書：								

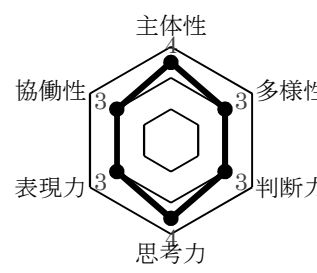
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	甲 田 紫 乃								
授業の概要	キーワード： エネルギーコミュニケーション、エネルギー自立、持続可能な社会								
	<p>&lt;テーマ&gt; エネルギー自立と持続可能な社会</p> <p>&lt;概要&gt; エネルギーコミュニケーション（エネルギー科学の一領域）及びグループ・ダイナミクス（社会心理学の一領域）の学際的観点から、エネルギー自立と持続可能な社会について多角的な分析・考察を行う。本プロジェクト研究4では、特に「考えること」「判断すること」「協働すること」に焦点をあて、エネルギー科学に特徴的な学際的視野を用いて、各自の知見・見識を深化させる。</p> <p>※本プロジェクト研究では適宜映像資料も用いる予定である。中間報告会および最終報告会では、各グループがもう一方のグループの発表を聞き、質疑応答、意見交換を行うというものであるが、これも「エネルギーコミュニケーション」の一種であり、発表会もエネルギーコミュニケーションの一種である。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とする。本プロジェクトでは、この6つの能力を身につける過程で、以下の3点、すなわち、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各発電方法の違いを、具体的な数値、計算式などを用いて、分かりやすく説明することができる。</li><li>・エネルギーミックス、エネルギー自立と持続可能な社会について、事例を用いて分かりやすく説明することができる。</li><li>・知りたい情報を学術図書、学術論文、統計データから見つけ出し、分析することができる。</li></ul> <p>この3点を身につけることを目標とする。</p>								
授業計画	1. イントロダクション①：グループ・ダイナミクス、エネルギーコミュニケーション 2. イントロダクション②：代表的な発電方式の概要、エネルギー自立 3. イントロダクション③：学術論文の読み方・プレゼンの仕方などの基礎 4. 調査（1） 5. 調査（2） 6. 調査（3） 7. 調査（4） 8. 中間報告会及びディスカッション 9. 調査（5） 10. 調査（6） 11. 調査（7） 12. 調査（8） 13. 最終報告会及びディスカッション、発表準備 14. 発表練習 15. 発表会 ※順番等は変更になる可能性がある。								
	教員による計画・方針・意向を重視			●			学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視				●		学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	各回の取り組み状況（40%）、報告会（30%）、発表会（30%）								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	特になし。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施			●			他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： 特になし。 ◆参考書： 適宜紹介する。								

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	高井亨								
授業の概要	キーワード： 自由の意味、研究、SDGs と SDGs ではないもの								
	<p>&lt;テーマ&gt; 大学生の自由研究</p> <p>&lt;概要&gt; 自らテーマを設定し、研究を遂行します。テーマは自由に選んで構いませんが、ひとつだけ制約があります。各自が選んだテーマが、どのように SDGs と関係するのか（しないのか）、つまり SDGs という視点から考察をおこなってください。みなさんが関心のあるテーマと SDGs それぞれについて深く理解することが求められます。とはいえ、<u>楽しみながら探求できるテーマを見つけ、取り組むことが一番大事です。</u>そして、可能ならば、卒業研究につながるような研究テーマを見いだせるとよいでしょう。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、どの能力もまんべんなく必要です。しいていえば「主体性」を身につけることを目標にします。</p> <p>また、プロ研 4 の履修生は、プロ研 2 の履修生の良い手本となることも重要であるため、リーダーシップを磨くことも求められます。</p>								
授業計画	1：イントロダクション（自己紹介など） 2：研究テーマの探索 3：各自の研究テーマの発表 4：研究テーマの練り直し 5：先行研究の調査 6：先行研究の調査 7：調査・分析 8：調査・分析 9：中間発表会 10：調査・分析 11：調査・分析 12：成果物づくり 13：成果物づくり 14：プロ研内での発表会 15：プロ研発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●		学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容			●		2人以上のグループ活動が必須			
評価方法	意欲（20％）・態度（20％）・成果（60％）の割合で評価する。								
	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	意義のある成果を得るためには、講義時間外にも研究をすすめることが必須です。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●			他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る			●		学内で活動			
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： 適宜紹介する。 ◆参考書： 適宜紹介する。								

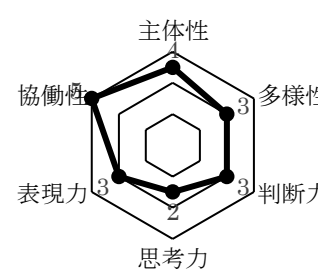
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGS															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	谷口 晴香																							
授業の概要	<p>キーワード： 人と動物の関係、アニマルウェルフェア、環境エンリッチメント</p> <p>＜テーマ＞ 公立鳥取環境大学のヤギをテーマに人と動物の共生のかたちを考えよう</p> <p>＜概要＞ 本プロジェクトでは、公立鳥取環境大学のシンボルの 1 つであるヤギをテーマに、人と動物（例. 家畜、ペット）のよりよい共生のかたちを考えます。近年、アニマルウェルフェア（AW）の改善が SDGs の目標達成にも貢献することが指摘されています。AW の改善として「5 つの自由と対策」モデルが提案されており、そのうちの 1 つに「正常行動発現の自由」というものがあります。動物の習性に配慮しつつ動物を適正に扱うことは、AW の向上につながります。この視点で、本学のヤギを対象に動物行動学的手法などを用いつつ AW を考えます。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、本学のヤギに着目しプロジェクトを立ち上げ、行動観察などの手法を用い、「人と動物が共生する上での問題点とその解決方法はなにか」をメンバーと協働し模索し、率先し意見をまとめていく能力を養います。</p>																							
授業計画	<p>下記の講義計画で進めていく予定であるが、必要に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. イントロダクション</li><li>2. 各自の研究テーマの発表</li><li>3. グループ分け、テーマ決め</li><li>4. グループにおけるテーマの発表・練り直し</li><li>5. 調査準備・調査</li><li>6. 調査・分析</li><li>7. 調査・分析</li><li>8. 調査・分析</li><li>9. 調査・分析</li><li>10. 調査・分析</li><li>11. 成果物づくり</li><li>12. 成果物づくり</li><li>13. プロ研内での発表会・議論</li><li>14. 成果物づくり</li><li>15. 発表会</li></ol> <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>個人研究の発表内容（20%）、グループ研究の発表内容（40%）、授業の取り組み状況（40%）により評価する。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	グループごとの研究スケジュールによる																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 授業のなかで適宜紹介します</p>																							

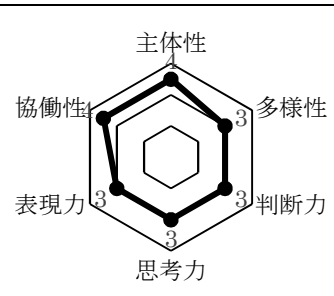
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	藤木 善夫								
授業の概要	キーワード： ソーシャルビジネス、TABLE FOR TWO (TFT) 、おにぎりアクション								
	<p>&lt;テーマ&gt; 鳥取からおにぎり世界に発信しよう！</p> <p>&lt;概要&gt;世界の食の不均衡について理解を深めたい。特に、TABLE FOR TWO (2 人の食卓) のメイン事業である発展途上国の子どもたちの学校給食に賛同企業が寄付する「おにぎりアクション」に参加することで、社会貢献企業（事業）について理解を深める。プロジェクト研究 2 と共同で行う。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクト研究 4 では、とくにソーシャルビジネスを理解し、世界のいろいろな不均衡について自ら学び、多様な価値観に知見を開き、「おにぎりアクション」で発展途上国の子どもたちとのつながりを実感することで、社会起業に興味と親和性を高く持つてもらうことを目標とする。</p>								
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. ソーシャルビジネスについて理解する 3. TABLE FOR TWO (2 人の食卓) の目指すものについて理解する 4. T F T の実態を理解する 5. 自分たち（個人）のおにぎりアクションを考える 6. 写真発表・撮影し、ハッシュタグをつけて投稿する 7. チーム（プロ研 2 とプロ研 4）でソーシャルビジネスの分野と企業・団体を考える 8. チームで選んだソーシャルビジネスの分野と企業・団体の活動を研究する 9. チームで選んだソーシャルビジネスの分野と企業・団体の活動を研究する 10. 選んだソーシャルビジネスについて研究をまとめる (1) 11. 選んだソーシャルビジネスについて研究をまとめる (2) 12. 選んだソーシャルビジネスについて研究をまとめる (3) 13. 発表資料の作成 (1) 14. 発表資料の作成 (2) 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容				●	2 人以上のグループ活動が必須			
評 価 方 法	参加状況、学習意欲、最終成果物への貢献などを総合的に判断する。最終成果物への貢献を重視する。参加状況 10%、学習意欲 10%、最終成果物への貢献 80%。								
	最終成果物の完成を重視				●	各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	8～9 回目で作成してくれる業者の選定等、実際に商談を予定している								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●		他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら<第 6 版>」2020 年 開発教育協会、ISBN 978-4877732356								

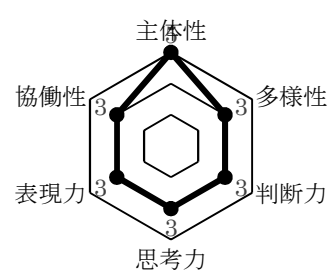


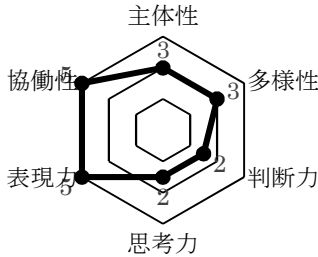
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	藤田 恵津子																							
授業の概要	<p>キーワード： 大学生生活、社会的資源、Quality of Life</p> <p>＜テーマ＞ 学内の社会的資源を訪問し、学生生活の QOL を高める II</p> <p>＜概要＞ プロジェクト研究 3 で身につけたスキルを活用し、主体的な姿勢で知識や情報を獲得し、問題の所在や構造、課題解決策をグループ討議等から協働的に明らかにしていく。本プロジェクト研究は、健康で実り多い学生生活を送るために、学内の社会的資源であるさまざまな部署を訪問し、当該の業務や目標、やりがい、課題などについて説明を受けるとともに、学生の自主性と社会性の育成をめざす。発表会では、パワーポイントによる発表を行う。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。プロジェクト研究 4 では課題を幅広い視点で考察し、自らの考えを発展させる方法を学び、その能力や問題意識の育成を評価する。</p> <div></div>																							
授業計画	<div><div><div>1. オリエンテーション(研究の目的、方法、計画、報告)、班分け</div><div>2. 社会人としてのマナー学習（挨拶、自己紹介等）、次回の事前訪問準備</div><div>3. 各部署への事前訪問、次回訪問に向け担当グループによる事前学習</div><div>4. 訪問①学生相談室相談員の方による特別講義「自己理解とセルフケア」</div><div>5. 前回訪問の振り返りと次回訪問に向け担当グループによる事前学習</div><div>6. 訪問②図書情報課の方による特別講義「SNS の活用と課題」</div><div>7. 前回訪問の振り返りと次回訪問に向け担当グループによる事前学習</div><div>8. 訪問③学務課（キャリア支援室）の方による特別講義「キャリアナビの活用」</div><div>9. 前回訪問の振り返りと次回訪問に向け担当グループによる事前学習</div><div>10. 訪問④卒業生（本学職員）の方による特別講義「学生から社会人へ」</div><div>11. 前回の振り返りと活動全般の振り返り</div><div>12. 発表会に向けた討議とプレゼンテーションの準備①</div><div>13. 発表会に向けた討議とプレゼンテーションの準備②</div><div>14. プレゼンテーションのリハーサルと相互評価</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<div><div>毎回の学習・活動状況・ミニレポート 50%、発表・レポート等 50%</div><table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table></div>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	講義前には、関連する文献やメディアを通して理解を深める。授業後は、ボランティアや実習、日常生活などの体験を通して考察を深めておく。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<div><div>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</div><table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table></div>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	<div><div>◆教科書：</div><div>◆参考書： 藤本・東編著 ワークショップ 大学生生活の心理学 ナカニシヤ出版 2009 年</div></div>																							

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs												
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期												
教 員 名	堀 磨伊也																				
授業の概要	<p>キーワード： 未来社会、シンギュラリティ、Society 5.0</p> <p>&lt;テーマ&gt; 未来社会をデザインする</p> <p>&lt;概要&gt; シンギュラリティは近いのか？我が国が目指すべき未来社会として Society 5.0 が提唱されているが、どのような社会が実現されるのかを予測し、目指すことは重要である。本プロジェクト研究では、グループで立案したテーマに関して、未来社会を独自にデザインするとともに、そのデザインの根拠となる情報を収集・活用することで論理的に話を展開する演習を行う。</p>																				
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本プロジェクトでは、特に思考力（筋道を立てて考える力）を用いて未来社会を創造すること、グループ内で議論において幅広い視点からの考察を展開することを目標とする。</p> <div></div>																				
授業計画	<div><div><div>1. イントロダクション</div><div>2. 創造したい未来テーマの立案と調査</div><div>3. 創造したい未来テーマに関する発表会</div><div>4. グループ分け，テーマ決め</div><div>5. テーマに関する調査 1</div><div>6. テーマに関する調査 2</div><div>7. テーマに関する未来社会の創造</div><div>8. テーマに関する未来社会に関する中間発表会</div><div>9. 未来社会の予測の根拠となる資料収集 1</div><div>10. 未来社会の予測の根拠となる資料収集 2</div><div>11. 根拠に基づく未来社会の再デザイン 1</div><div>12. 根拠に基づく未来社会の再デザイン 2</div><div>13. 発表準備 1</div><div>14. 発表準備 2</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																		
教員と学生の双方向性を重視		●	学生同士の双方向性を重視																		
個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須																		
評価方法	<p>個別の貢献度(60%)、中間発表(10%)、最終発表(30%)で評価する。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視								
最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視																		
講義外での学 習	最新の科学技術動向を日常的に収集する。																				
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●		他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●	学内で活動	時間割通りの実施	●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●		他にも何らかの成果物を作成																		
学外フィールドに出る		●	学内で活動																		
時間割通りの実施	●		他の曜日の集合あり																		
教 材	<p>◆教科書： 特になし</p> <p>◆参考書： 特になし</p>																				

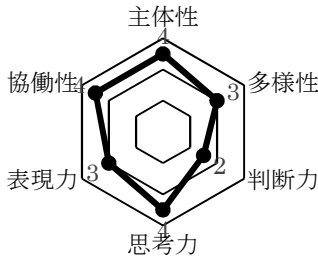
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	SDGs												
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期												
教 員 名	門木 秀幸																				
授業の概要	<p>キーワード： 食品廃棄物、食品ロス、コンポスト</p> <p>＜テーマ＞ コンポスト化による生ごみのリサイクル</p> <p>＜概要＞ 家庭から出る可燃ごみでは、生ごみが大きな割合を占めています。生ごみは含水率が高く、焼却処分するには助燃剤が必要となります。また、腐敗しやすく、各家庭において分散して排出されるためにリサイクルが極めて難しい廃棄物です。本プロジェクト研究では、家庭から出る生ごみの量やその要因を調査します。また、各人が集めた生ごみを用いてコンポスト化を試験的に行い、リサイクルによる生ごみの削減効果について検証します。そして、生ごみのリサイクルだけでなく食品ロスの問題についても考えます。</p>																				
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、生ごみのコンポスト化試験を行いその効果について定量的に検証します。その中で廃棄物問題について理解を進め、特に廃棄物問題について幅広い視点から考察し、自らの考えを発信あるいは提案するために必要な問題意識や能力を身に付けます。</p>																				
授業計画	<div><div><div>1. プロジェクト研究の概要説明、プロジェクト研究の進め方についての協議</div><div>2. 食品廃棄物（生ごみ）、食品ロス、コンポスト化について基礎的な調査、学習</div><div>3. コンポスト化技術や調査計画の作成</div><div>4. 家庭の生ごみの調査、コンポスト化試験、データ収集①</div><div>5. 家庭の生ごみの調査、コンポスト化試験、データ収集②</div><div>6. 家庭の生ごみの調査、コンポスト化試験、データ収集③</div><div>7. 家庭の生ごみの調査、コンポスト化試験、データ収集④</div><div>8. 家庭の生ごみの調査、コンポスト化試験、データ収集⑤</div><div>9. 家庭の生ごみの調査、コンポスト化試験、データ収集⑥</div><div>10. 家庭の生ごみの調査、コンポスト化試験、データ収集⑦</div><div>11. データの取りまとめ</div><div>12. 食品廃棄物・食品ロスの発生要因の検証</div><div>13. プレゼンテーションの準備</div><div>14. 発表練習</div><div>15. 発表会</div></div><div>・講義の時間以外に各自が自宅において廃棄物の計量や調査を行うとともに、自宅から集めた生ごみのコンポスト化試験を行います。</div></div> <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生による自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●	学生による自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●	学生による自発的な計画・方針・意向を重視																		
教員と学生の双方向性を重視		●	学生同士の双方向性を重視																		
個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須																		
評価方法	<div>チームへの貢献度（講義への組み姿勢、出席状況、積極性等） 60%</div> <div>成果物及び発表会 40%</div> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>								最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視									
最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視																		
講義外での学 習	家庭での廃棄物調査、各自が持参した生ごみコンポスト化試験、プレゼンテーションの準備等があります。																				
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●	学内で活動	時間割通りの実施		●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成																		
学外フィールドに出る		●	学内で活動																		
時間割通りの実施		●	他の曜日の集合あり																		
教 材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>																				

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	相川 泰																							
授業の概要	<p>キーワード： 国際情勢、世界史的意味、変化</p> <p>＜テーマ＞ 2025 年の国際情勢の歴史的意味を考えよう</p> <p>＜概要＞ 現在の国際社会は、後で振り返って、歴史的意味があったと位置づけられるかも知れないような変化に満ちています。2025 年の出来事（予定を含む）で重要そうなものに焦点を当て、詳しく調べ、重要な意味がある変化かどうか考えたうえで、その結果を成果物にまとめ発表するまでの、計画・運営・総括に取り組みます。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、国際的な政治・経済・社会・環境を題材としつつ、その歴史的な意味について、他の人たちとも分担・協力しながら結論を出し、他の人にも伝える成果物にまとめていく過程で、全体をまとめるなど、特に主体性と協働性を高めます。</p>																							
授業計画	<div><div><div>1. 顔合わせ、趣旨説明、当初の計画案の提示と確定</div><div>2. 直近 1 週間の国際ニュースから一部を視聴、疑問や興味を持った点の集約</div><div>3. 同上</div><div>4. 同上</div><div>5. 序盤の振り返りと、グループ分け要否の確認、必要な場合のグループ分け</div><div>6. 前回の仕切り直しに基づく作業、最後に進捗状況を確認・共有</div><div>7. 最初と最後に進捗状況を確認・共有・微調整しつつ作業を継続</div><div>8. 同上</div><div>9. 同上</div><div>10. 同上+成果物のまとめと発表会に向けた注意喚起</div><div>11. 最初と最後に進捗状況を確認・共有・微調整しつつ作業を継続</div><div>12. 新規情報の追加の原則停止、成果物・発表会発表の仮完成</div><div>13. 発表会発表の個別の予行演習と要修正点の確認・修正</div><div>14. 発表会発表の通しの予行演習と成果物の Web 掲載</div><div>15. 発表会</div></div><div>上記計画は必要や状況に応じて修正、変更することがある</div><div>各回の司会、記録等は 2 回目以降、持ち回りで担当する</div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生</td><td>の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生</td><td>同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td><td></td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●	学生	の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●	学生	同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須	
教員による計画・方針・意向を重視		●	学生	の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●	学生	同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須																					
評価方法	<p>円滑な運営への協力姿勢 25%、各自作業 25%、意見交換への参加姿勢 25%、発表会準備と Web 成果物作成の過程および完成度 25%の比重で評価</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視											
最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視																					
講義外での学 習	授業時間は集まってしかできない作業のためのものとし、各自、個人で出来ることは時間外に行うこと。授業支援システムも相互に積極的に活用すること。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●	学内で活動	時間割通りの実施	●		他の曜日の集合あり			
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成																					
学外フィールドに出る		●	学内で活動																					
時間割通りの実施	●		他の曜日の集合あり																					
教 材	◆教科書： ◆参考書：																							

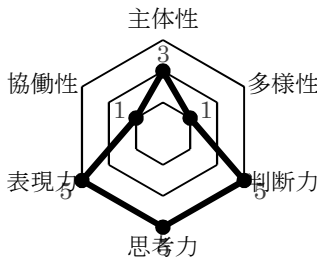
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	加藤 禎久																							
授業の概要	<p>キーワード： 世界の中の日本、SDGs、DX</p> <p>&lt;テーマ&gt; Think Globally, Act Tottori</p> <p>&lt;概要&gt; 「地球規模で考え、足元から行動せよ」という標語を知っていますか。このプロジェクト研究では、私たちが生活している鳥取でできることを考えます。前半は、教員が指定する他の国に関する調査をし、後半は大学付近のとある場所での、地球規模の課題の解決につながる取り組みの提案をグループごとに行います。また、共通してオンライン共同編集作業とプロっぽいデザインができる Canva の使い方を身につけます。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、最終的なサイトで行うことの提案に至るまでに、多角的かつ詳細な調査・分析を行い、自らのアイデアを発展させることを重視する。また、その考えを多くの人に理解可能な提案として、協働してまとめる。</p>																							
授業計画	<p>1. ガイダンス：テーマとプロ研の流れ（進め方）についての説明、注意事項、自己紹介</p> <p>2. 前半グループ分け、担当国名発表、グループ内で自己紹介、調査テーマを話し合う</p> <p>3. 調査テーマを教員と相談の上、決定</p> <p>4. リサーチ</p> <p>5. リサーチ</p> <p>6. リサーチ</p> <p>7. グループごとに中間発表会の準備</p> <p>8. グループごとに中間発表会の準備</p> <p>9. <u>中間発表会</u>（クラス内のみ）</p> <p>10. 後半テーマサイト見学、グループワーク</p> <p>11. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論</p> <p>12. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論</p> <p>13. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論</p> <p>14. グループごとに最終発表会の準備、リハーサル</p> <p>15. <u>最終発表会</u>（公開）</p> <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>中間発表（30%）、最終発表（40%）、グループメンバー間の相互評価（10%）、授業内活動参加点（20%）</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	2回の発表会の前には授業時間外でグループごとに集まり、追加調査をしたり発表の準備や練習をしたりする時間が必要になるので注意。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p><u>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u></p> <p>ノートパソコンを持参すること。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 必要に応じて適宜示す。</p>																							

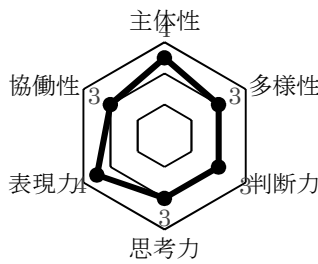
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	門田 慎也																							
授業の概要	<p>キーワード： 世界、文化、習慣</p> <p>＜テーマ＞ 日本と世界</p> <p>＜概要＞ 日本における文化や習慣は他国のそれらと異なる特徴を持つものが多いです。本プロジェクトでは、国やトピックを設定・調査し、日本との相違点を認識してそれぞれの良さを理解します。また、グループ活動や発表を通じて、下記の6つの能力を養うことを目指します。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、自分の考えを他者に伝える表現力と、チームメンバーと活動できる協働性を重視します。</p>																							
授業計画	<div><div><div>1. オリエンテーション</div><div>2. テーマ設定とグループ編成</div><div>3. グループ活動（1）</div><div>4. グループ活動（2）</div><div>5. グループ活動（3）</div><div>6. グループ活動（4）</div><div>7. 中間発表会準備</div><div>8. 中間発表会</div><div>9. グループ活動（5）</div><div>10. グループ活動（6）</div><div>11. グループ活動（7）</div><div>12. グループ活動（8）</div><div>13. 内部発表会準備</div><div>14. 内部発表会</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>活動報告（40%）、発表・聴講レポート（30%）、発表（30%）</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	講義内ではグループ活動を行うため、調査や資料作成など個人活動は講義外に行ってください。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： なし																							

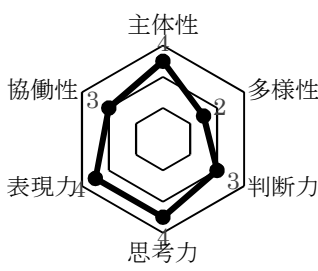
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	Sean BANVILLE <a href="mailto:banville@kankyo-u.ac.jp">banville@kankyo-u.ac.jp</a>							Office 4307	
授業の概要	キーワード: English textbooks & websites, Lesson planning, Peer teaching								
	<div>&lt;テーマ&gt;    What kind of materials are best to teach and learn English?</div> <div>・ To examine and assess different kinds of English language teaching materials</div> <div>・ To plan English lessons</div> <div>・ To teach mini lessons in English to class peers</div> <div>・ To analyze the effectiveness of materials in the classroom</div>								
到達目標	<div>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</div> <div>本プロジェクトでは、・・・</div> <div>Students will evaluate three teaching texts: (1) online materials, (2) the in-house textbook, and (3) a textbook on SDGs. Students will make PowerPoints to teach their peers. They will discuss their thoughts on the effectiveness of their own teaching.</div>								
授 業 計 画	<div>1. Orientation</div> <div>2. Plan/Teach/Assess 1 (Grp 1: Speaking / Grp 2: Writing / Grp 3: Reading)</div> <div>3. Plan/Teach/Assess 2 (Same as above)</div> <div>4. Plan/Teach/Assess 3 (Same as above)</div> <div>5. Plan/Teach/Assess 4 (Grp 1: Reading / Grp 2: Speaking / Grp 3: Writing)</div> <div>6. Plan/Teach/Assess 5 (Same as above)</div> <div>7. Plan/Teach/Assess 6 (Same as above)</div> <div>8. Plan/Teach/Assess 7 (Grp 1: Writing / Grp 2: Reading / Grp 3: Speaking)</div> <div>9. Plan/Teach/Assess 8 (Same as above)</div> <div>10. Plan/Teach/Assess 9 (Same as above)</div> <div>11. Reflection, discussion and sharing of teaching experiences</div> <div>12. Creation of questionnaire for research data</div> <div>13. Putting together the presentation PowerPoint</div> <div>14. Presentation preparation and rehearsal</div> <div>15. 発表会 (Wednesday, 21<sup>st</sup> January 2026)</div>								
	教員による計画・方針・意向を重視				●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評 価 方 法	Participation (30%), Thoughts on peer teaching (30%), Presentation (40%)								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	Students will look at different English-teaching materials to create a plan to teach their peers in mini workshops in class. All students will teach speaking, reading, and writing lessons, and assess the materials and their experiences.								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施			●			他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書:			<a href="http://breakingnewsenglish.com">breakingnewsenglish.com</a>					
	◆参考書:								

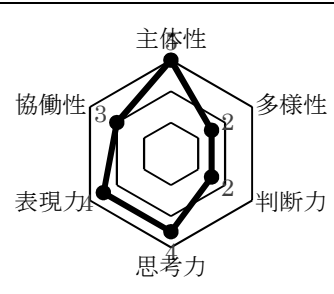
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル												
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期												
教 員 名	谷口謙次																				
授業の概要	<p>キーワード： 世界史、日本史、グローバル・ヒストリー</p> <p>＜テーマ＞ いろいろな「モノ」や「コト」の歴史について調べよう。</p> <p>＜概要＞ 学生の皆さんには歴史というと教科書を思い浮かべるでしょう。しかし、実際は様々な物事、人物、出来事一つ一つに歴史があります。料理や食品、ファッションや装飾品、家具や日用品などの「生活」や、スポーツや音楽、アニメやゲームといった「娯楽・趣味」、車や電車、飛行機などの「乗り物」など、私たちの身の回りの「モノ」や「コト」にも歴史があるのです。こうした身近な「モノ」や「コト」の歴史を調べることで、過去や世界と私たちのつながりについて考えてみましょう。</p>																				
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、前半と後半の2つに分けて、前半ではテキストをグループごとに分かれて読み、本の読み方や報告の仕方などを学びます。後半ではグループでテーマを決めて調査を行い、発表会で報告を行います。グループ調査で、主体性と協働性を身に着けます。</p> <div></div>																				
授業計画	<div><div><div>1. ガイダンス：自己紹介、プロ研で学ぶ内容の説明、グループ分け</div><div>2. 本の読み方とまとめ方①：本の上手な読み方やまとめ方を学ぶ。</div><div>3. 本の読み方とまとめ方②、レジメの書き方①</div><div>4. 鳥取県立図書館オリエンテーション：本や雑誌などの探し方、本などの検索方法</div><div>5. 図書レポート①：テキストを読んで報告をし、みんなで議論をする。</div><div>6. 図書レポート②：テキストを読んで報告をし、みんなで議論をする。</div><div>7. グループ分け、調査のテーマ決め：発表のためのテーマを決める。</div><div>8. 資料の集め方・まとめ方①：図書館やネットで資料を集める。</div><div>9. 資料の集め方・まとめ方②：集めた資料を整理して、必要な部分を探す。</div><div>10. 報告のまとめ方：資料から見つけた内容を報告のためにまとめる。</div><div>11. 中間報告</div><div>12. 報告準備、レジメの書き方②：報告のためのレジメの作り方。</div><div>13. 報告準備、報告の仕方：発表会での報告の仕方</div><div>14. プレ発表会</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																		
教員と学生の双方向性を重視		●	学生同士の双方向性を重視																		
個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須																		
評価方法	<p>平常点 60 点（課題提出、グループ活動への参加など）、発表会&amp;最終レポート 40 点</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視								
最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視																		
講義外での学 習	授業中に課題を出します。また、グループ調査では講義外に最低 1 回は集まって打ち合わせなどを行ってください。																				
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●	学内で活動	時間割通りの実施		●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成																		
学外フィールドに出る		●	学内で活動																		
時間割通りの実施		●	他の曜日の集合あり																		
教 材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書： 『チョコレートの世界史』『珈琲の世界史』</p>																				

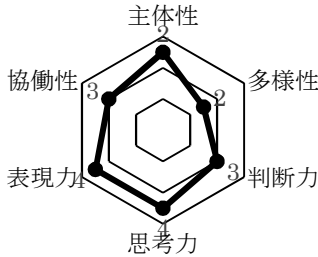


科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル	
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期	
教 員 名	徳山瑞文									
授業の概要	キーワード： 使える英語      英語苦手意識      流暢さ第一									
	<b>&lt;テーマ&gt;      英語を使って楽しもう</b> 学生 の グローバル な 視点 を 育 む た め に 不 可 欠 な 英 語 の 実 践 運 用 能 力 を 身 に つ け て も ら い ま す 。 単 語 、 イ デ オ ム 、 英 文 法 を 組 み 合 わ せ た ク イ ズ の よ う な 勉 強 癖 に 抜 け 出 す た め に 、 本 来 の 外 国 語 学 習 の 楽 し さ を 体 感 し て 、 将 来 的 に 自 分 が 続 い て い け る 学 習 方 法 を 探 し ま す 。 さ ら に 、 自 分 の 体 験 を 他 人 に 伝 え る 「 表 現 力 」 を 養 っ て い く こ と を 目 指 し ま す 。									
到達目標	プロジェクト研究 1 ～ 4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。本プロジェクトでは、どんな方法で英語が使えるようになる実感を踏まえて分析し、他人の意見も参考し自分なりの学習方法を見出すことを目標とします。また、最後発表会での英語芝居パフォーマンスを行い、その内容が評価されることで、英語運用能力を実践することができることに重点を置きます。									
授業計画	1. オリエンテーション 2. 英語芝居の資料を指導する 3. 英語芝居の資料を指導する 4. 英語芝居の資料を指導する 5. 英語芝居の練習と課題解決 6. 英語芝居の練習と課題解決 7. 英語芝居の練習と課題解決 8. 使える英語についての結論 9. 英語苦手意識について結論 10. 流暢さ第一を鍛えるための意識 11. 総合的な感想 12. グループ発表と英語芝居の演習確認 13. 発表会の準備 14. 発表会前の確認 15. 発表会									
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生 の 自 発 的 な 計 画 ・ 方 針 ・ 意 向 を 重 視					
	教員と学生の双方向性を重視			●	学 生 同 士 の 双 方 向 性 を 重 視					
	個人による単独活動を許容				●	2 人 以 上 の グ ル ー プ 活 動 が 必 須				
評価方法	授業参加姿勢 (60%)， 成果発表会でのプレゼンテーション内容 (30%)， グループ活動への貢献度 (10%) を総合的に評価します。									
	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学 習	英語芝居の練習									
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。									
	学内 Web ・ 発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る				●	学内で活動				
	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり					
教 材	◆教科書： CIRQUE DU FREAK by Darren Shan ◆参考書： English Dictionary									

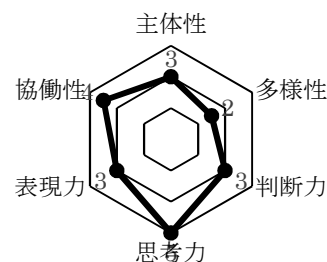
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	中村 弘子								
授業の概要	キーワード： 国際学、学際性、プレゼンテーション・スキル								
	<p>＜テーマ＞ 「グローバル社会とその多様性を理解する」</p> <p>＜概要＞ グローバル社会における多種多様な課題について自ら調べることで理解を深めます。さらに疑問点について質問紙調査を行い、分析・考察を進める過程で、課題について主体的で、深い学びを実現する。成果物については口頭発表を行い、各自のプレゼンテーション・スキルを高めます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、グループでリサーチした内容について各グループでクリティカルに分析することによって上記の能力の向上を図り、英語または日本語で原稿を用いず発表し、上記の能力を各自が強化することを達成目標とする。2年生はより良い発表のための表現力が求められます。</p>								
授 業 計 画	1. オリエンテーション・グループ分け 2. グループ発表(1)&(2)；グループの発表トピックの決定 3. グループ発表(3),(4),&(5)；先行研究のレビュー 4. 先行研究のまとめ 5. 先行研究について発表 6. 質問紙の作成 7. 予備調査 9. データ分析 10. データ分析 11. 調査結果の報告 12. 発表準備 13. 発表練習 14. 発表練習 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
評 価 方 法	授業での取り組み、グループワーク、グループ発表での貢献度等を総合的に評価する。								
	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	グループ発表のための準備のほとんどは講義外になる。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●		他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施		●			他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： ◆参考書：「国際学への扉を開く」宇都宮大学国際学部編（978-4-88286-876-7）								

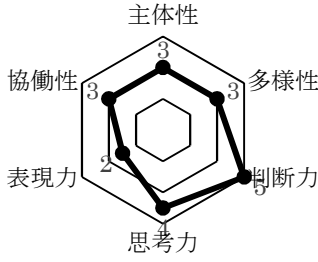
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	松井 徹								
授業の概要	キーワード： 再生可能エネルギー、地球温暖化対策、脱炭素								
	<p>＜テーマ＞ 再生可能エネルギーの活用を考えてみよう</p> <p>＜概要＞</p> <p>本プロジェクト研究では、世界的課題である地球温暖化に対して、再生可能エネルギーの活用を考える事で、その利点と課題を分析、調査してもらいます。グループ毎に調査活動を協働して行います。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、グループ活動において自らやるべきことを見つけ、調査活動を実施し、最終的にはその成果を取り纏め、より良い発表を目指す能力を身に着ける事を目標とします。</p>								
授 業 計 画	<p>1. ガイダンス、自己紹介</p> <p>2. 環境とエネルギーについて（講義）</p> <p>3. 再生可能エネルギーとは？（講義）</p> <p>4. 近年の再生可能エネルギー推進政策の状況（講義）</p> <p>5. 班分け(再生可能エネルギー毎) 調査活動計画作成（調査活動には学外視察含む。）</p> <p>6. 太陽光発電現場視察</p> <p>7. 風力発電現場視察</p> <p>8. 中間発表（質疑応答練習）</p> <p>9. 追加調査活動（班別）</p> <p>10. バイオマス発電現場視察</p> <p>11. 水力発電他現場視察</p> <p>12. 発表資料作成</p> <p>13. 事前発表練習（プレゼンテーション訓練、質疑応答練習）</p> <p>14. 発表資料修正（13. の結果をもとに）</p> <p>15. 発表会</p> <p>現場視察は班ごとに行うが、視察先の事情で実施回、回数を調整する。</p> <p>発表練習等はパワーポイントを用る。</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視				●		学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評 価 方 法	中間発表、プレゼンテーション訓練、質疑応答練習の機会を通じて総合的に評価する。								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	グループ毎に調査結果を取りまとめるための打ち合わせが必要です。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る				●		学内で活動		
	時間割通りの実施				●		他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： なし 講義内で資料を提供します。 ◆参考書： 講義の中で適宜紹介します。								

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	柚洞 一央																							
授業の概要	<p>キーワード： 地理的見方・考え方、現地で現象を探す</p> <p>＜テーマ＞ 鳥取でグローバル社会を考える</p> <p>＜概要＞</p> <p>鳥取県という日本の地方にもグローバル化の波が押し寄せています。本プロジェクト研究ではグローバル化の現象を身近な地域からみなさんに見つけてもらいます。現地での聞き取り調査を重視しながら鳥取という地域社会の見える実情に迫ります。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、特に幅広い視点からの考察を展開し、自らの考え方を発展させてゆくことを重視し、その方法を学ぶことができているか、それに必要な問題意識や能力が育成されているかを評価します。調査手法としては地理学が得意とする現場で考える作業を重視します。</p>																							
授業計画	<div><div><div>1. 地理的な見方・考え方とはなにか</div><div>2. 地域社会で起きていることをどのように把握するのか</div><div>3. 主体的・対話的で深い学びとは</div><div>4. 地図で考える</div><div>5. 仮説を立てる①</div><div>6. 仮説を立てる②</div><div>7. 仮説を立てる③</div><div>8. 仮説の共有—みんなで考える①</div><div>9. 仮説の共有—みんなで考える②</div><div>10. 困ったときは「助けて」と主張する①</div><div>11. 困ったときは「助けて」と主張する②</div><div>12. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する①</div><div>13. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する②</div><div>14. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する③</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>最終成果物の内容を中心に評価します</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td>●</td><td></td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視	●			各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視	●			各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	授業内での作業だけでなく各自の興味関心にあわせて独自に調査探求をすること																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>																							

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	磯野 誠																							
授業の概要	<p>キーワード： マーケティング、デザイン、ステッカー</p> <p>＜テーマ＞ 鳥取のイラストギフトステッカー開発</p> <p>＜概要＞ マーケティングの基本的な考え方を、鳥取の観光客に向けたイラストギフトステッカーを開発し、販売計画をたてる。その過程で、顧客理解、コンセプト設定、タッチポイントを学ぶ。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本プロジェクトでは、マーケティングの考え方をもとにしたイラストギフトステッカー開発を通して、特に、主体性、表現力、思考力を身につけることを重点に置く。</p> <div></div>																							
授業計画	<div><div><div>1. イントロダクション</div><div>2. マーケティングの基本的な考え方</div><div>3. 目標、資源環境分析</div><div>4. セグメンテーション&amp;ターゲティング</div><div>5. コンセプト設定</div><div>6. デザイン開発 (1-1)</div><div>7. デザイン開発 (1-2)</div><div>8. 顧客調査・知見のレビュー</div><div>9. デザイン開発 (2-1)</div><div>10. デザイン開発 (2-2)</div><div>11. 顧客調査・知見のレビュー</div><div>12. 販売計画 (1)</div><div>13. 販売計画 (2)</div><div>14. プレゼンテーション準備</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td>●</td><td></td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容	●			2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容	●			2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>ディスカッションへの積極性 (50%)、成果物のクオリティ (50%)</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	第 3 回以降毎回出される課題を解いて次回までに用意する。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書： 磯野 誠 (2025) 「マーケティングはこれでいい」 ナカニシヤ出版</p> <p>◆参考書：</p>																							

科目名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	老田 智美								
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> ユニバーサルツーリズム、地域特性、多様性</p> <p><b>&lt;テーマ&gt;</b> 三朝温泉「シン・湯治場」計画</p> <p><b>&lt;概要&gt;</b> 日本有数の湯治場として知られる三朝温泉は、歴史や文化、自然環境など独自の地域特性を有しています。本プロジェクトは、これらの特性を十分に理解したうえで、「ユニバーサルツーリズム」の視点から、年齢や国籍、身体状況にかかわらず、多様な人が滞在したくなる「シン・湯治場」を提案し、三朝温泉の魅力向上と課題解決を目指します。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、「情報発信」「環境整備」「サービス」のグループにわかれて現地調査や提案に関するディスカッション、資料作成を行います。現地調査から提案根拠となる課題を見出し、考察・分析し、提案へと展開する力を養うことを到達目標とします。</p>								
授業計画	<p>1. イントロダクション講義（UD ツーリズム、三朝温泉）</p> <p>2. 情報収集とグループ内ディスカッション ①</p> <p>3. 情報収集とグループ内ディスカッション ②</p> <p>4. 現地調査計画の作成 ①</p> <p>5. 現地調査計画の作成 ②</p> <p>6. 三朝温泉街の現地調査</p> <p>7. 現地調査の分析</p> <p>8. 現地調査結果の発表会</p> <p>9. グループワーク ①</p> <p>10. グループワーク ②</p> <p>11. 提案内容の発表会</p> <p>12. グループワーク ③</p> <p>13. グループワーク ④</p> <p>14. 発表リハーサル</p> <p>15. 発表会</p>								
	<p>教員による計画・方針・意向を重視</p> <p>教員と学生の双方向性を重視</p> <p>個人による単独活動を許容</p>								
	<p>学生発の自発的な計画・方針・意向を重視</p> <p>学生同士の双方向性を重視</p> <p>2人以上のグループ活動が必須</p>								
	<p>成果物の他、各回フィードバックとグループワーク議事録の提出を求め、併せて評価されます。評価割合：各回フィードバック&amp;グループワーク議事録（50%）、成果物（50%）</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>								
評価方法	<p>各回、または複数回ごとの成果を重視</p>								
講義外での学習	1回は三朝温泉での現地調査を講義外（休日）に終日実施します。								
履修上の注意事項	<b>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</b>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成								
	学外フィールドに出る								
	時間割通りの実施								
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>								



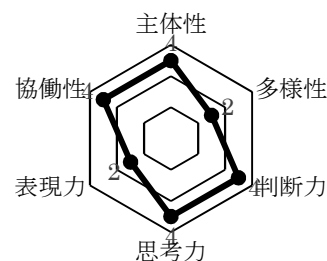
科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般									
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期									
教 員 名	川崎 紘宗																	
授業の概要	<p>キーワード： 解釈、脱進歩史観、構築主義</p> <p>&lt;テーマ&gt; 歴史上の出来事や伝承・伝説・行事の「意味」を解釈する。</p> <p>&lt;概要&gt; 伝承や伝説等は現代人から見れば非合理的かつ非科学的に見えるかもしれませんが、しかし、それらは当時の人にとっては合理的な思考の末に生み出された、当時の最先端の知識の集大成（いわば「科学」）でした。では、それら伝承や伝説、さまざまな年中行事にはどのような意味が隠れているのでしょうか。また、歴史上の出来事にも何らかの「意味」が存在していますが、現在においてその正確な「意味」は見えず、ただ、その出来事には、このような「意味」があるのではないかと解釈することをする ことしかできません。 本授業では表面からは見えない背後に隠されている「意味」の解釈を試みます。</p>																	
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、特に課題について、幅広い視点から考察を展開し、自らの考え方を発展させてゆくことを重視し、そのために必要な方法に習熟すること、それに必要な問題意識を持つことができることを目標とします。</p>																	
授業計画	<div><div><div>1. オリエンテーション①：研究方法の概要についての説明と事例紹介</div><div>2. オリエンテーション②：自己紹介とチーム分け</div><div>3. テーマの探索・調査①</div><div>4. テーマの探索・調査②</div><div>5. テーマの報告</div><div>6. 史料の探索・調査①</div><div>7. 史料の探索・調査②</div><div>8. 中間報告</div><div>9. 研究対象の解釈とその根拠についてのロジックを組み立てる①</div><div>10. 研究対象の解釈とその根拠についてのロジックを組み立てる②</div><div>11. 成果物の報告</div><div>12. プレゼンテーション資料の作成①</div><div>13. プレゼンテーション資料の作成②</div><div>14. リハーサル 15. 発表会</div></div><div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div></div>									教員による計画・方針・意向を重視	●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視	●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容	●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視	●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																
教員と学生の双方向性を重視	●	学生同士の双方向性を重視																
個人による単独活動を許容	●	2人以上のグループ活動が必須																
評価方法	<p>授業内での報告内容（10%）、最終レポート（20%）、最終成果物（70%）で評価されます。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視	●	各回、または複数回ごとの成果を重視						
最終成果物の完成を重視	●	各回、または複数回ごとの成果を重視																
講義外での学 習	毎回の授業でチームごとに進捗状況を報告してもらうので、その報告の準備およびチームごとに事前の打ち合わせをすること。																	
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る	●	学内で活動	時間割通りの実施	●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●	他にも何らかの成果物を作成																
学外フィールドに出る	●	学内で活動																
時間割通りの実施	●	他の曜日の集合あり																
教 材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書： 西條勉『『古事記』神話の謎を解く：かくされた裏面』、中央公論新社（ISBN: 9784121020956）</p>																	

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	久保 奨（専任）								
授業の概要	キーワード： 文献調査、輪講、グループ活動								
	<p>＜テーマ＞ ちゃんと調べてみる</p> <p>＜概要＞ 世の中には、様々な怪しい情報が飛び交っています。例えば、ワクチンについては、「接種が不妊症の原因になる」「接種で感染する」などと言われたりします。本プロジェクトでは、調べ方を学んだ上で、グループに分かれて自分達が気になるそうした情報について、実際にはどうなのかを学術的に調べてみます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、調べて結論を導く過程を通じて、特に多様性や協働性を身につけることを目標とします。</p>								
授 業 計 画	<div>1. 導入：プロジェクトの説明、自己紹介</div> <div>2. 輪講の練習、気になる情報の共有</div> <div>3. 輪講1（調べることで目指すもの）</div> <div>4. 輪講2（雑誌記事・論文を調べる等）</div> <div>5. 輪講3（統計を調べる等）</div> <div>6. グループ活動1（調べるテーマ決め）</div> <div>7. グループ活動2（テーマに係る背景の調査）</div> <div>8. グループ活動3（テーマ自体の調査）</div> <div>9. グループ活動4（同上）</div> <div>10. グループ活動5（同上）</div> <div>11. グループ活動6（調査結果の取りまとめ）</div> <div>12. グループ活動7（発表資料の作成）</div> <div>13. 内部発表会</div> <div>14. グループ活動8（発表会の最終準備）</div> <div>15. 発表会</div>								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
評 価 方 法	発表会の内容（40％）、輪講での発表内容（30％）、グループ内メンバー間の相互評価（20％）、各回での活動状況（10％）								
	最終成果物の完成を重視				●	各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	文献調査、発表資料の作成等								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成				●	他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施		●			他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 宮内泰介、上田昌文「実践 自分で調べる技術」岩波書店								



科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	竹内由佳								
授業の概要	キーワード： マーケティング，プロモーション，社会学								
	<p>&lt;テーマ&gt; これ本当に流行ったの？「流行」を体験してみよう。</p> <p>&lt;概要&gt; 最近手に入らなくなったものの中で，ガンブラがあるのをご存知ですか？ガンブラって，2020 年あたりの新型コロナウイルス感染症の時期に，引きこもって 1 人でできる趣味として脚光を浴びてから…いろいろな条件が混ざり合った結果，現在とても手に入るものではない状況になりました。しかし思いませんか？「そんなにガンブラって面白いの？」と。流行っているけど体験したことがないものってありませんか？私が研究するマーケティングの文脈だと，流行るのにも理由があり，背景があります。しかしそれを実際に体験することなく終わることも多々あるものです。このプロ研では，その「流行り」を実際に体験して，その理由や背景について，ニュースやネット記事からの受け売りではなく，皆さんの見解を導いてもらうことを目的としています。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 3 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。本プロジェクトでは、特に、「多様性」「主体性」「表現力」を重視します。グループワークにおいて，他の意見も理解しながら（多様性），自分の意見を作り，リーダーとなり（主体性），プロジェクトの報告を行う（表現力）ことを意識してください。</p>								
授業計画	1. ガイダンス、自己紹介、アイスブレイキング 2. 問題設定① グループ作り，グループ内で議論 3. 問題設定② グループ内で議論 4. 調査・体験① 5. 調査・体験② 6. 調査・体験③ 7. 第 1 回目報告（どんな問題を設定したのかを報告，質疑応答） 8. 調査・体験④ 9. 調査・体験⑤ 10. 調査・体験⑥ 11. 調査・体験⑦ 12. 第 2 回目報告（設定した問題についての調査結果報告，質疑応答） 13. 発表会向けの資料作り① 14. 発表会向けの資料作り② 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2 人以上のグループ活動が必須			
評価方法	講義内での報告内容（50%）、成果（50%）で判断。なお，成果とは最終成果物だけでなく，それまでに使用・作成したすべての資料を指します。（おおよそ）第 8 回目と最後には，自己評価シートを記入してもらいます。								
	最終成果物の完成を重視				●	各回，または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	問題を設定する際や分析する際には柔軟な考え方といろいろな分析視点が必要となるので，とにかく「こんなのいらないんじゃない？」と思うような情報でも目に入れて自分の武器にするようにしてください。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成				●	他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施				●	他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： 特になし。 ◆参考書： 適宜指定します。								

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	戸 莉 丈 仁（専任）								
授業の概要	キーワード： 物理学，スポーツ科学，テニス								
	＜テーマ＞ テニスの科学								
	＜概要＞ 伊達公子，錦織圭，大阪なおみなどの世界レベルのテニス選手の登場により，日本の中でのテニス人気が高まっています．本プロジェクト研究では，テニスに関する研究課題について，科学的な視点から解明に取り組みます．今回のプロジェクト研究ではテニスに関する課題を設定し，実験研究に取り組む中で，「研究」のプロセスを理解します．(EX) ・テニスラケットの形状（フレーム厚，面形状，面の大きさ）と各ショットへの影響 ・テニスラケットの重さ・バランス・スイングウェイトと各ショットへの影響								
到達目標	プロジェクト研究 1～4では，思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは，特に下記の 3 点について重視します。 ① テーマ設定，調査，実験などの計画を自ら考え，策定する主体性 ② 得られた情報を取捨選択する判断力 ③ 調査結果について考察する思考力								
授 業 計 画	1. 授業計画 1. プロジェクトの概要説明、ガイダンス 2. テニスについての基礎的知識 3. 班分けおよび課題分担の決定 4～8. 調査、情報収集 9. 中間報告 10～13. 調査，分析 14. 発表練習 15. 発表会  ・テニスというスポーツを科学的に考えるテーマですので，特にテニスの経験者である必要はありません． ・調査テーマ，実験計画は各班で決定します。								
	教員による計画・方針・意向を重視			●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
評 価 方 法	最終の成果物と発表内容により評価								
	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	既往報告の調査やテニスについての知識習得が必要								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●		他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： 適宜資料配布 ◆参考書： 適宜資料配布								



科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	中島 智子																							
授業の概要	<p>キーワード： 人口減少、移住者支援</p> <p>&lt;テーマ&gt; 鳥取の移住者を増やそう！</p> <p>&lt;概要&gt; 鳥取の移住者および移住を検討している人々の現状を調査・分析し、移住者増加のために必要な取り組みを検討する。プロジェクト研究 4 と共同で行います。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究 1 ～ 4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクト研究 4 では、鳥取の人口減少という地域課題に対して、主体的に取り組み、多様な価値観を持つさまざまな人々と協働します。</p>																							
授業計画	<div><div><div>1. オリエンテーション</div><div>2. 鳥取の移住者の状況を調査する (1)</div><div>3. 鳥取の移住者の状況を調査する (2)</div><div>4. 鳥取の移住者の状況を調査する (3)</div><div>5. 移住者へのインタビュー</div><div>6. 移住者へのインタビュー内容を分析する (1)</div><div>7. 移住者へのインタビュー内容を分析する (2)</div><div>8. 移住者増加のために必要な取り組みを考える (1)</div><div>9. 移住者増加のために必要な取り組みを考える (2)</div><div>10. 移住者増加のための必要な取り組みを考える (3)</div><div>11. 移住者増加のための必要な取り組みを考える (4)</div><div>12. 発表資料の作成 (1)</div><div>13. 発表資料の作成 (2)</div><div>14. 発表資料の作成 (3)</div><div>15. 発表会</div></div><table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table></div>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>参加状況や学習意欲、最終成果物への貢献などが総合的に判断されます。</p> <p>参加状況・学習意欲 30%、最終成果物への貢献 70%。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	移住者へのインタビューや文献調査などを予定しています																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web ・ 発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web ・ 発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web ・ 発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書： コンサル一年目が学ぶこと』大石 哲之、ディスカヴァー・トゥエンティワン、ISBN：978-4-7993-1532-3</p>																							

科 目 名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	一般															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	山口 和宏																							
授業の概要	<p>キーワード： 鳥取 農産物 生産振興</p> <p>&lt;テーマ&gt; 鳥取県で生産されている農産物を探る</p> <p>&lt;概要&gt; 本プロジェクト研究では、鳥取県で生産されている農産物を題材として、様々な「なぜ？」について探求するとともに、農産物生産における①現在の到達点、②抱えている課題、について学習し、生産を継続させていくためには何が必要なのかについて考えていきます。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、鳥取県の農産物を対象としたグループ研究を行う中で特に、物事の側面にある多様な考えを理解しまとめる思考力、自らの意見を創り出す主体性、他者と協力して物事を進める協働性、グループの様々な意見を理解し、そこから結論を導き出す判断力を身に付けることを目指します。</p>																							
授業計画	<p>下記の講義計画で進めていく予定であるが、必要に応じて変更する場合もありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>ガイダンス（自己紹介・テーマの概要と講義の進め方の説明）</li><li>プロジェクトテーマに関するディスカッションとグループ分け</li><li>グループにおける研究テーマの選定</li><li>グループにおける研究計画の策定</li><li>グループでの研究活動①</li><li>グループでの研究活動②</li><li>グループでの研究活動③</li><li>研究・調査結果の中間とりまとめ</li><li>研究結果の中間発表・意見交換・今後の研究活動の打ち合わせ</li><li>グループでの研究活動④</li><li>グループでの研究活動⑤</li><li>発表会に向けた資料作成（発表資料の作成・発表者の選出）</li><li>発表会に向けた予行練習・質疑応答</li><li>発表会資料の修正・Web 登録の実施</li><li>発表会</li></ol> <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>ディスカッションやグループ活動への参加状況（30%）、講義内での中間発表（30%）、発表会での最終成果（40%）で評価されます。</p> <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	グループごとの打ち合わせや報告資料の準備、個人での情報収集や研究が必要となります。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p> <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	<p>◆教科書： 特になし</p> <p>◆参考書： 必要に応じて、適宜紹介する</p>																							

